

9月に入りました。まだ暑いとはいえ、季節は秋へと突入していきます。良き実りが与えられますように。

### 1. 福音にふさわしい生活 (1章27節)

- ①ただ一つ 新改訳聖書2版では「ただ」とあるところを3版では「ただ一つ。」とあります。新共同訳では「ひたすら」とある部分です。原語「モノン」。このことだけは忘れるなという響きがあります。
- ②福音にふさわしい生活を 「キリストの福音にふさわしく」とあります。これはよく考えるとなかなかむずかしい。まず「福音とは何ぞや」というところからはじまり、その福音にふさわしくとなるとさらに複雑になります。でも、キリストがその生涯において愛を全うし、十字架において人間の罪を贖い、復活してくださったという出来事が土台であることは間違いありません。愛の極致がキリストの福音のなかにあります。となれば、キリストに習って生きるというのがまず一つであります。
- ③恵みの福音にふさわしく しかしさらに考えると、この福音は恵みそのものです。私たちは救いようのない罪人であるにもかかわらず、ただ恵みによって救われるというのが福音です。とするならば、福音にふさわしくというのは、その恵みのなかに全く浴するというというのが、その根本にあるといえるでしょう。そうでなければ、キリストから学ぶということが律法的になってしまうのです。

### 2. 離れているにしても (1章27節)

- ①離れていても 獄中であってはすぐに行くことはできません。教会の人々の情報は入ってきません。「好事門を出でず、悪事千里を走る」と言われますが、キリストの福音を本当に生きているならそれは伝わっていくのです。それは離れた所にいるパウロのもとにもきっと伝わってくることでしょ。
- ②霊を一つ、心を一つにし 一人のクリスチャンがキリストを見上げながら生き、もう一人のクリスチャンもキリストの福音にあって生きているとします。その二人が出会うと聖霊による一致、キリストにある心の一致が生まれるのです。聖霊によるコラボレーション。それは人間が作り出すものではなく強いのです。震災以降「絆」という言葉が標語になりましたが、キリストにある「絆」は見えない熱いつながりとなるのです。
- ③主にある奮闘 聖書を読みながら、人間の頑張りだけを読み解いたとするなら、それは事柄の半分です。主にある恵みを受けて、「福音の信仰のために」、奮闘するところにポイントがあるのです。人間の力によって頑張るのではなく、キリストの恵みに押し出されて働くところに、不思議な主の出来事が起きるのです。一見では同じに見えても、その違いは大きいのです。

### 3. 反対があっても (1章28節)

- ①驚かされない キリストの福音を携えていけば、反対者が必ずやってきます。キリストの旗を掲げて事業を行っていた医師が、キリストの旗をなんとか降ろそうとする反対者に悩まされたという話を聞きました。キリストを標榜すれば、引き摺り下ろしたいという勢力が必ず生まれます。しかし、キリストを見上げて、福音に生きていくならば、反対者たちの攻撃に驚かされはしないのです。
- ②滅びのしるし キリストを十字架につけたとき、指導者たちはあざ笑っていました。兵士達もキリストをあざけっていました。「キリストなら自分を救え」と叫びました。しかし、キリストはそれらの迫害をじっと耐え忍びました。反対者は勝ったと考えています。しかし、そうではありませんでした。それは敗北でした。悪の勢力の滅びのしるしでありました。
- ③救いのしるし キリストが息を引き取ったとき、それを見ていた百人隊長は、神をほめたたえ「本当に、この人は正しい人であった。」と言い、群衆も心打たれて帰って行ったのです(ルカ 23:47)。それは霊的勝利の始まりでした。キリストのゆえの反対を受けることは、救いのしるしなのです。

《結論》 入院手術を経験して、少しだけ楽になったことがあります。それは、私が否応なく弱者になったということに基づきます。丈夫が取得だと思っていたのに、丈夫ではなくなってしまったのです。

福音とは、人間が全面的に罪人であることを認め、その解決は全面的に主の恵みによるという知らせです。一方的な恩恵により救われるのです。救われた後もこの恩恵の中に浴することが第一です。何もできませんから、助けてください、憐れんでください、導いてくださいというところから始まるのです。「キリストの福音にふさわしく」とありますが、「私にはキリストの福音にふさわしく歩めません。どうぞ助けてください。憐れんでくださって、福音にふさわしく歩めるようにしてください。」とまずは祈るのです。そして導かれたことから始まるのです。病人と同じだと思えば良いのです。「私はサポートされないとやっていけません。どうぞ主が支えてください」。頑張るところからではなく、主に支えられ、導かれるところから始まるのです。「どうぞ、主よ。私の生活を福音にふさわしく整えてください」。

《祈り→御言葉→行動》これが基本です。自分なりの福音にふさわしい生活に合わせて頑張るというよりも、キリストとともに歩む道です。今の私にできることを教えられ、助けられながら進んでいく道です。